

テスト設計コンテスト OPEN クラス - ア

全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名

栃木

チーム ID

S260716003

チーム名

不撓不屈の民

チーム紹介

チーム名は当社創設者を題材とした映画・書籍名にもなっている「不撓不屈」が由来となっています。その不撓不屈の精神を胸に秘めたメンバーは、若手からベテランまで経験バラバラな6人構成です。ただ生憎、メンバー全員本コンテストの様なテスト設計においては経験不足であることは否めません。今回は挑戦者として現状の持てる力で最善を尽くし、将来の糧にしたいと思います。

コンセプト

AI (Copilot) を有効活用したテスト設計書の作成に挑戦することです。

作成の際に、人間と AI それぞれの視点で設計を実施することで、漏れの無い整合性のとれたテスト設計を目指します。

工夫点

以下3点が工夫点の大きなポイントです。

1. AI の有効活用

展開されているテストベースをインプットとして、AI を活用して成果物のベースを作成しました。活動初期は全体像を見出すことができませんでしたが、たたき台となるベースができたことで、成果物のゴールイメージを早期に形にできたと感じています。作業の繰り返しでの気づきは、プロンプトに反映させ、AI の精度を高めることもできました。

2. 成果物の妥当性・整合性の確保

AI 活用と人の確認を組合せ、成果物の精度を高めました。

テスト計画書、テスト要求分析書、テストアーキテクチャ設計書、テストケース設計書、テスト実装手順書
成果物 ~ 間で記載内容の一貫性を保てるように人の目や内容確認とともに、AI でも内容の差異を確認し、それぞれを繰り返しました。人にしかわからない見た目の違い、人には気づくことができない表現の違いなど、特徴を生かして作業を効率化することができました。また、何より人だけではできなかった成果物に上げることができました。

3. チームでの円滑な作業進行

業務をやりながらのプラスの取り組みで、作業時間の確保には苦労しました。社内、社外でのキックオフや定期的なミーティングでコミュニケーションをとって作業を進めました。同じ場所と時間を共有できるように、合宿という名の週末に会議室にこもって集中作業イベントも開催し、協力体制も重視した活動となりました。参加当初は想定していなかった決勝進出で、同じ部署6人で始めた活動も、4部署に散らばっての活動になりました。最後の決勝戦のプレゼンまで、チーム一丸となって不撓不屈の精神でやりぬきます。